

「幸福」を考える

——東洋、西洋、実証研究

2020 年 11 月 28 日（土）

13 : 30 ~ 18 : 00

事前申し込み制

（下記アドレスまでお気軽にお申し込みください）

E-Mail : irhsa@ml.aichi-u.ac.jp

プログラム（時間はだいたいの予定です。）

13 : 30 ~ 趣旨説明

13 : 40 ~ 緒方賢一（同志社大学・講師）

中国に〈幸福〉はあるか？

14 : 20 ~ 伊集院利明（愛知大学・教授）

Well-being 哲学研究の現在地点

15 : 00 ~ 休憩

15 : 15 ~ 樋口義治（愛知大学・名誉教授）

幸福を形にする—認知行動の視点からの分析

15 : 45 ~ 武田圭太（日本大学・教授）

働く女性の幸福感に影響する要因

16 : 15 ~ 小野賢一（愛知大学・教授）

西欧中世の幸福：『聖レオナルド伝』にみる至福なる人

16 : 45 ~ 休憩

17 : 00 ~ 質疑応答

お問合せ先・：愛知大学人文社会学研究所

<http://taweb.aichi-u.ac.jp/irhsa/>

441-8522 豊橋市町畑町 1-1

TEL : 0532-47-4167

「幸福」を考える——東洋、西洋、実証研究

幸福が人間にとって重要な価値であることは論をまたない。そして、幸福は、近年、実証研究においても、哲学においても重要なテーマとなっており、特に幸福に関する実証研究について言うならば、その必要性は注目を集め、また、収入と幸福との関係が、従来考えられていたほど強くはないことをはじめとした諸成果は（通勤時間と幸福との関係といったようなものも含めて）、世間においてもかなり知られるようになってきている。

しかし、幸福についての研究が本格化したのは、比較的最近のことである。実証研究について言うと、「主観的幸福」研究を確立したディーナーや、心理学者としてはじめてノーベル経済学賞をとったことで知られるカーネマンの研究、また、「ポジティブ心理学」の動向が注目されてくるようになるのも、1980年、90年代以降のことである。

哲学について言うと、西洋哲学は幸福を古代から主題的に扱ってきていないわけではないものの、幸福が哲学界全体での議論の主題となって組織的な形での議論が本格化するのには、比較的最近のことである。また、幸福についての古代、中世等の思想家の論が、近年の哲学的幸福研究と、同じ問題について論じてきたと言えるのかすら、はっきりとしない。

こうした中で、本シンポジウムは、幸福研究をさらに推進するための方向性を模索することを狙いとする。

本シンポジウムの最大の特色は、一つの分野の専門家のみによる会では決してなく、登壇者が様々な分野の専門家により構成されていることである。このことが、本シンポジウムの最大の狙いをあらわしている。幸福の現在の研究状況を進展させていくために、諸学間の連携関係がとりわけ重要になるであろうと考えられるからである。

本シンポジウムにおいて、そうした連携は、特に二つの方向から追及される。

一つが、現在進行形の実証研究および哲学研究と、より、古い時代の幸福感についての研究との間の連携である。古代ギリシアの哲学思想は、現在進行形の哲学的幸福研究だけでなく、実証研究にも大きな影響をおよぼしているが、しかし、先にも述べたように、古代の思想と現在の諸説との関係は、必ずしも明確に解明されているとは言えない。それ以上に、西洋古代を超えたより広い時代、文化、地域の思想への参照が、現在進行形の研究の進展にとってどれだけの起爆剤となるかを探ることは、あまりなされていないのが実情である。

もう一つが、哲学・思想と実証研究との連携である。両者の間の連携は、世界に目を向けるならば、それなりに模索されてきてはいる。しかし、その模索は、公平に言って、まだかなり散発的なものにとどまっている。本シンポジウムがその一層の発展の契機となれば幸いである。

講師紹介

伊集院利明

愛知大学文学部教授
専門は哲学（価値の研究）
主著に『愛の哲学的構成』（2018年 晃洋書房）など

緒方賢一

同志社大学グローバルコミュニケーション学部嘱託講師
専門は中国思想文化史主著に、『中国近世士大夫の日常倫理』（2014年 中国文庫）、『中国の庭、台湾の庭 —拙政園・留園・林家花園』（2014年 中国文庫）

樋口義治

愛知大学文学部名誉教授 専門は、行動心理学、災害心理学
最近の著作に、『震災復興の社会経済システムに関する研究』 愛知大学中産研 2019年、『生活場面における”止める”行動考察—ミニチュアシティ実験法を用いて—』愛知大学中産研 2019年、『コロナパンシミュレーション計画と認知行動』 日本心理学会発表論文集 2020年

武田圭太

日本大学商学部教授。専門は産業・組織心理学・生涯キャリア発達論。
主著に、『“私”を選択する女性心理』（2016年 学文社）、『採用と定着—日本企業の選抜・採用の実態と新入社員の職場適応—』（2010年 白桃書房）など

小野賢一

愛知大学文学部教授 専門は、西洋中世史 主な著作に、『21世紀の十二世紀ルネサンス論——教会史の視点から』（『西洋中世研究』西洋中世学会、第10号、2018年）、『国境を超える歴史学』（編著、愛知大学人文社会学研究所、2018年）、『帝国と魔女で読み解くヨーロッパ』（編著、愛知大学人文社会学研究所、2019年）、『ヨーロッパ前近代の複合国家』（編著、愛知大学人文社会学研究所、2020年）など